

伊勢崎市指定史跡

鶴 巻 古 墳

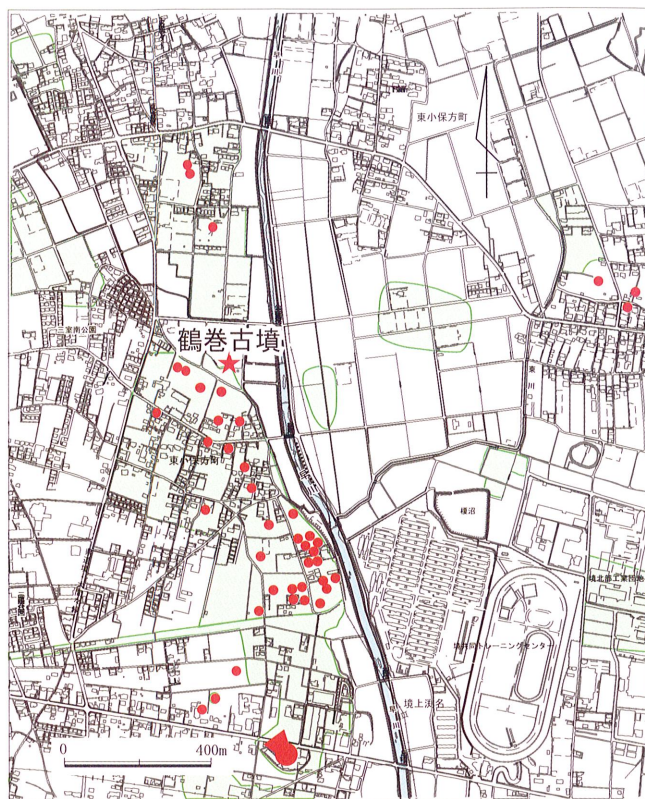
指定年月日：昭和44年2月21日 所在地：伊勢崎市東小保方町

お問い合わせ

伊勢崎市教育委員会 文化財保護課
〒372-0036 伊勢崎市茂呂南町5097-2
電話 0270-75-6672 Fax 0270-75-6673
E-mail: bunkazai@city.isesaki.lg.jp

鶴巻古墳は、早川の西側の大間々扇状地の上に築かれています。境上湊名から東小保方町にかけて前方後円墳の上湊名雙児山古墳など、70基ほどの古墳が群をなしていました。しかし、後世の開発でその多くが破壊され、古墳の形を保っているのは、この古墳群の一番北側に位置する鶴巻古墳だけです。

鶴巻古墳は発掘調査の結果、上下2段に多量の土を盛って築かれた直径34m、高さ2.5mの円墳で、西側に造出が造られていました。古墳の周囲には、外と内を区切るための周溝が掘られています。さらに古墳の上には円筒埴輪や形象埴輪が配列され、古墳が聖域であることを示していました。



●●古墳 ■■■遺跡の範囲

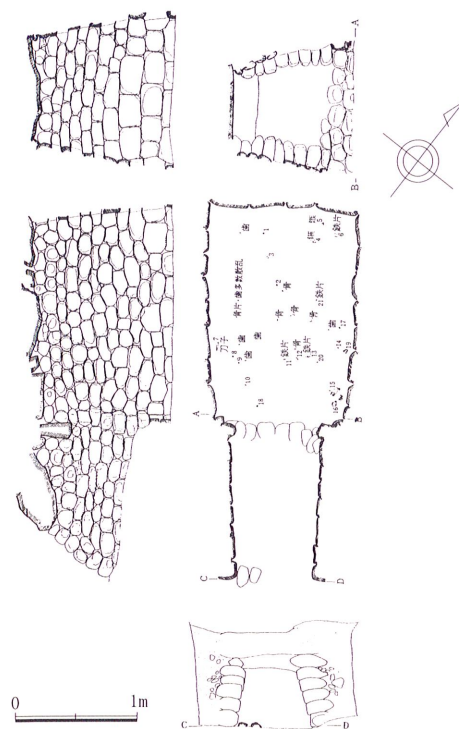


鶴巻古墳全景

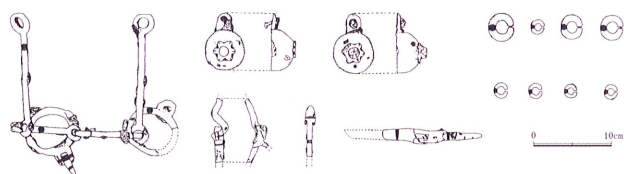
石室の壁は、6世紀後半に榛名山が噴火した時の
 角閃石安山岩^{かくせんせきあんざんがん}という石を利用しています。石室の形
 は、その石を削って交互に積み上げた横穴式石室^{よこあなしきせきしつ}で
 す。全体の長さは5.2m、幅2.1mあります。死者を
 安置し副葬品^{ふくそうひん}を置いた玄室^{げんしつ}からは、馬具に使われた
 鉄製の轡^{くつわ}や金具、遺体の耳につけた金銅製耳環^{こんどうせいじ かん}、武
 器である鉄製の刀子^{とうす}や鉄鏃^{てつそく}のほか、人骨片も出土し
 ています。入口から玄室に通じる羨道^{せんどう}は、長さ
 2.2m、幅1.2m、高さ1.2mあります。石室の入り口
 は南東の方向に開いています。

鶴巻古墳を築くには、多くの労力を必要としたこ
 とから、この地域をおさめた豪族の墓と考えられま
 す。また古墳は、死者を弔う墓^{とむら}であり、次の世代を
 継ぐ豪族を認めるための祭りをを行う神聖な場所でし
 た。

鶴巻古墳は、角閃石安山岩が用いられていること
 や、埴輪の形あるいは副葬品などの年代から、6世
 紀後半に築かれた古墳です。



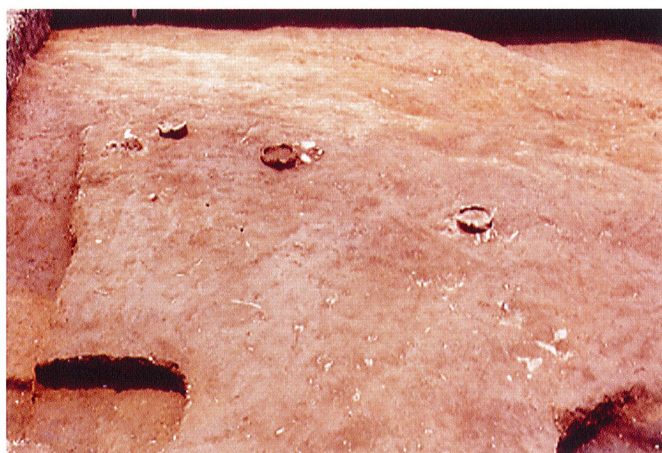
鶴巻古墳石室



鶴巻古墳出土遺物



鶴巻古墳石室



円筒埴輪出土状況

鶴巻古墳は現在、史跡公園として、地域の人々の
 憩いの場になっています。周辺には小学校もあり、
 児童の地域学習や歴史を学ぶ場としても、広く活用
 されています。



見学風景